

編集後記

第3号をみなさんにお届けします。

第2号に比べて編集事務のマニュアル化が進み、スムーズにいった半面、ニュース原稿の提出や校正の返却などが遅れ気味になったような気がします。それだけ関係者が多忙になったせいかもしれませんが、「慣れ」による気のゆるみのないよう、編集委員一同、努力しますので、みなさんもよろしく願います。

第3号では新しく「シンポジウム」というカテゴリーをつくりました。COE 関係の研究会・シンポジウムなどの成果を、その場の雰囲気もふくめてお伝えできればと思います。

御味読下さい。

(仁木 宏・編集委員長)

やはり年度末刊行の雑誌は、編集日程に厳しいものがありますね。編集主任として、胃の痛くなるような時期もありました。しかし、ご執筆いただいた先生方のご協力により、なんとか第3号も刊行の運びとなりました。ありがとうございました。なお、特筆すべきは、COE 事務局の出口さんの適切かつ迅速な対応です。出口さんのおかげで、いくつかのトラブルもなんとか解決することができました。記してここに感謝の意を表明いたします。

(T. K.)

参加して2度目の刊行を迎えることとなりました。関係者のみなさんの、妥協をほとんど許さない作り姿勢は本当に勉強になります。次回は今回よりもきちんと役目を果たせるように心がけて努力して参りたいと思います。

(金蔵)

昨今の頃は、第1号が産声をあげるほんの直前まで、「綱渡りの連続」を経験しておりました。2年目は、幸いにも、ほぼ順調に編集作業が進んだようです。これは、編集委員長、歴代の編集主任の並々ならぬ努力の結果であり、また、出口さんをはじめとする有能な事務方の支援が得られたからでもあります。第4号の円滑な編集作業を目指して、本号の編集主任からしっかりと「引き継ぎ」をさせていただきます。

(M.I.)

It has been a pleasure to be able to make a contribution once again, albeit a limited one, to this new issue of Studies in Urban Cultures. I have enjoyed working with my colleagues and join them in hoping that this journal will make a valuable contribution to this growing field of scholarship.

(I.R.)

第2号の編集主任の大役を終え、ひとり隠居気分ではぼーっとしているうちに第3号が完成を迎えました。着々と編集作業を進めて下さった新任の T.K.さん、仁木編集委員長、事務局の出口さん、どうもありがとうございました。私の積み残した沢山の宿題は確実に処理され、さらに充実した誌面になっています。ますます成長していく雑誌を見るにつけ、隠居気分になど浸ってられないと、気を引き締め直しています。

(土)

第2号に続いてこの第3号の編集にも関わらせていただきましたが、委員長と編集主任と編集事務のお三方の並々ならぬご尽力とご助力により、今回もどうか、自分の役目を果たすことができましたと思います。3人のお仕事に感謝します。これを見習って、誌面の一層の充実のために、非力ながら今後とも努力を重ねたいと思います。

(T. T.)